

令和 5 年 6 月 10 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12105

研究課題名(和文) 患者の意向に沿った家族の効力感をはぐくむ意思決定支援介入プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a decision-making support intervention program fostering family efficacy with the patient's wishes

研究代表者

伊東 美佐江 (ITO, Misae)

山口大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：00335754

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：文献レビューや事例検討会等より情報収集を行い、判断能力のある患者・家族の意思決定支援の現状と課題を明らかにした。

オタワ意思決定支援の枠組みに基づく、オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定コーチングに特化したプログラムを作成した。研修参加者は、共有意思決定支援の理解が高まり、オタワ意思決定支援の枠組み、オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定コーチングプロセスを理解した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

治療方法や療養場所の選択などの意思決定の際、患者の意向も多様であり、家族は重要な役割を担っている。看護師は、患者と家族の思い、主治医との間で板挟みとなるなど、戸惑いやジレンマを感じている現状がある。家族を含めた患者の意思決定支援研究は事例報告が多く、オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定コーチングに特化したプログラムは、看護師の理解と自信を高め、共有意思決定支援教育への学術的・社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：Through Information gathered from literature reviews and case study meetings, we tried to identify the current situation and challenges in decision-making support for patients with decision-making capacity and their families. Based on the Ottawa decision support framework (ODSF), a program was developed specifically for decision coaching using the Ottawa Decision Guide. The participants of this program had an increased understanding of shared decision-making support, the Ottawa decision-making support framework, and the decision coaching process using the Ottawa Decision Guide.

研究分野：看護学

キーワード：共有意思決定支援 患者の自律 家族 オタワ意思決定支援 看護師 教育 協働

## 1. 研究開始当初の背景

客観的な情報に基づいた意思決定支援の重要性が指摘されるなか、患者の価値観を中心として、治療選択の益・不利益によって介入の方向性が決まる傾向がある<sup>1),2)</sup>。医療者の意思決定支援の関わり方によって、患者・家族の不満足、不安、後悔などの感情が残ることが報告されている<sup>3),4)</sup>。患者個々の文化的背景を踏まえた上で意思決定の支援をすることが重要である。

わが国では、治療方法や療養場所の選択などの意思決定の際、患者の意向も多様であり、家族はその支援に重要な役割を担っている<sup>5),6)</sup>。患者と家族が個々の価値観や思いにより認識のずれが起こり、意思決定を妨げ、携わった家族が後悔する可能性も生じる。また、意思決定行動は、患者の置かれた状況によって変化するため、患者・家族種々の諸問題に折り合いをつけながら適時適所での継続的な看護介入が求められる。しかし、支援する看護者は、患者と家族の思い、主治医との間で板挟みとなるなど、戸惑いやジレンマを感じている現状がある<sup>7),8)</sup>。家族を含めた患者の意思決定支援は事例報告が多く、共有意思決定支援を促進する意思決定支援教育に焦点を当てた報告はない。

そこで、本研究では、「オタワ意思決定支援の枠組み」を基に、オタワ意思決定ガイド(**The Ottawa Personal Decision Guide : OPDG**)を用いた意思決定支援教育プログラムのわが国への適用を検討する。オタワ意思決定ガイドを用いて、非指示的に支援する意思決定コーチングを行うことで、患者とその家族の知識や価値観を明らかにしながら、意思決定することを支援する<sup>9)</sup>。これら「オタワ意思決定支援の枠組み」を理解し、実践的な教育プログラムによって、看護者が意思決定支援への実践に対する自信を高めることができると考える。また、患者や家族の意思決定時の後悔や意思決定の遅れ、家族間の葛藤等を少しでも軽減すると考える。

## 2. 研究の目的

- (1) 文献レビューや事例検討会等より情報収集を行い、判断能力のある患者・家族の意思決定支援の現状と課題を明らかにする。
- (2) オタワ意思決定支援の枠組みに基づく「意思決定支援教育ワークショップ」の日本での適用として、オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定コーチングに特化したプログラムを作成し、その内容について評価・検討することである。

## 3. 研究の方法

- (1) 判断能力のある患者・家族の意思決定支援介入に特化した文献レビューや情報を収集する。
  - (2) オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定コーチングに特化したプログラムの評価
- 本プログラムは、共有意思決定に向けた多職種連携アプローチ、オタワ意思決定支援の枠組み、オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定のプロセス、共有意思決定を調整する意思決定コーチングの過程を理解できることを目標とする。

カナダで、オタワ大学(カナダ)の看護学部教授、**Ottawa Hospital and Health Research Institute**において、患者へのトランスレーショナルリサーチの研究主幹であり、意思決定支援に関する分野を国際的に牽引している**Dawn Stacey**博士らと検討する。ワークショップに用いるオタワ意思決定支援に関するオタワ意思決定ガイド(2人用)や意思決定コーチング説明書ならびにビデオの翻訳、**Brief Decision Support Analysis Tool (DSAT-10)**を翻訳し日本語版作成を行う。**SURE test**等使用の許諾を得て、プログラムに組み込む。対象者の意思決定支援に関する認識や実施するうえでの自信、教育プログラムの内容について、意思決定支援教育ワークショップ前後の自由記載を含む質問紙調査と意思決定支援教育ワークショップ後のインタビューを行い、量的・質的分析を用いた評価を行う。本研究の実施にあたり、倫理委員会の承認を得る。

プログラム内容：1回のワークショップでは講義とロールプレイを含み、1回 240分(4時間)とする。

対象者：医療における意思決定支援を実践する者および教育者を含む、共有意思決定支援に関心のある看護者である。

調査内容：ワークショップ前には対象者の基本属性、意思決定支援に関する認識を質問紙調査にて研究参加者の状況を把握し、教育プログラムを実施する。ワークショップ後、内容枠組みに沿った項目について、リッカート尺度、および自由記述で質問紙調査を行うとともに、インタビューガイドを用いてグループ・インタビューを行う。

## 4. 研究成果

2020年初頭より、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大に伴い、施設内への入館制限や来院要請以外の面会制限、医療従事者の行動制限等があり、COVID-19終息の見通

しが見つからない中、プログラム実施を計画するもののパンデミック等により中止となり、再三の調整を要した。

(1) 判断能力のある患者・家族の意思決定支援介入に関して、学術集会への参加・発表や事例検討会、文献レビューから調査・分析を行った。

非がん性呼吸器疾患とともに生きる患者は、増悪と回復を繰り返すたびに機能が低下し、自身の終末期を意識することなく死を迎えることがある。患者は日々の病状に対処することに集中し、将来を見据えた意思決定なく終末期となり、家族は患者の意思を把握できないまま看取りとなり心理的苦痛や葛藤、後悔を伴う。国内外の文献検討により、わが国における非がん性呼吸器疾患患者のエンドオブライフケアにおける意思決定支援の研究動向とその課題を明らかにすることを目的として文献検討を行った。1992年～2020年3月までの文献検索結果、分析対象論文は14文献であり、本研究の目的内容に沿って類似性に基づき帰納的に分析した。その結果、「呼吸困難のケア」「患者の意思確認困難」「疾患の理解不足」「代理意思決定支援での家族の苦悩」「意思決定支援のタイミングの遅延」「看護師の葛藤」「多職種チーム支援の難しさ」「意思決定支援ガイドライン作成やシステム構築の必要性」が報告されていた。増悪に備え在宅酸素療法や非侵襲的陽圧換気療法の導入する際や急変に備えた患者や家族の意思決定支援に関する報告がほとんどなく、非がん性呼吸器疾患患者のエンドオブライフケアの意思決定支援の課題を解決するためのさらなる研究の必要性が示唆された。

さらに、非がん性慢性呼吸器疾患患者と家族へのACP支援の特徴について検索した138件から二次スクリーニングを経て14件を対象論文とした。看護師が実施した患者、家族へのACP支援に関する記述内容からコードを抽出し、Text Mining Studio Ver7.1を用いて分析した。非がん性慢性呼吸器疾患に特有なものは少なく、一般的なACP支援にとどまっていることや、ACP支援は患者中心であり、家族を交えた支援は不十分であることが明らかとなった。

また、病院から療養場所の移行を迫られたがん患者の家族は、サポート家族の存在や医療者からの情報提供と声かけにより家で自分が看る決意を行っていた。療養場所が移行しても絶え間ない安心感の提供により、家で自分が看ることを肯定的に捉えることの支援につながることが示唆された。

国際学会や研究者や臨床看護師との交流から、共有意思決定での各国の実情の意見交換を行い、将来的な展望としての研究の示唆を得た。また、医療の意思決定プロセスにおける患者と家族の参加状況や意思決定能力のある患者における家族の代理決定に関するケアの介入や意思決定に影響する要因について知見を得た。

(2) オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定コーチングに特化したプログラムを実施と評価

感染症予防対策を講じながら、オタワ意思決定支援に基づく共有意思決定支援ワークショップについて、5県で研究参加者を募集し、ワークショップを2020年11月～2023年3月の間に、ワークショップを12回実施し、1回あたり少人数(3～7人)で繰り返し開催した。ワークショップには、65名の参加があり、学生や欠損値処理後、分析対象者は55名であった。

男性7人、女性48人の看護者であり、20才代12名、30才代11人、40才代22人、50才代10人であった。プログラム受講前に共有意思決定支援という言葉の意味を理解している者は40%で、30.9%が意思決定支援に関する研修会等へ参加経験があった。意思決定に関わる機会は79.1%があり、80.0%が意思決定支援の際に困難な経験があり、7.3%がツールを用いて意思決定支援したことがあり、ほとんどの者が意思決定支援への自信はなかった。プログラム終了後、ワークショップについて、92.7%が内容はわかりやすかった、98.2%が知識を得ることができたと回答し、オタワ意思決定支援の枠組み、オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定コーチングプロセスを理解し、意思決定支援するためにツールを使うことができると過半数の者が回答していた。意思決定支援にかかわる自信、共有意思決定支援における自身の実践評価について、肯定的評価が増加した。しかし、協働共有意思決定の影響要因は話し合うことができるが、協働共有意思決定の重要な要素を説明し、自己評価する点には課題があった。

このような意思決定支援ワークショップを通じて、臨床看護師とともに意見交換を行うことで、実際の参加者の経験も踏まえながら具体的な方策を考え、意思決定への患者中心の支援と家族の包含について示唆を得た。そして、プログラムを通じて得た知識により、プログラム前よりも意思決定支援への関与に自信を持つことができたが、個別事例に対する意思決定支援に用いられる意思決定支援ツールの開発、参加しやすさと共に、さらなる実践に結びつくような有効性を実感できるプログラムの開発が必要だと考えられた。

治療方法や療養場所の選択などの意思決定の際、患者の意向も多様であり、家族は重要な役割を担っている。看護者は、患者と家族の思い、主治医との間で板挟みとなるなど、戸惑いやジレンマを感じている現状がある。家族を含めた患者の意思決定支援研究は事例報告が多く、オタワ意思決定ガイドを用いた意思決定コーチングに特化したプログラムは、看護者の理解と自信を高め、共有意思決定支援教育への学術的・社会的意義がある。今後さらな

る意思決定支援ツールの開発と、意思決定コーチングを含む意思決定支援介入を探求する必要がある。

【引用文献】

- 1) Stacey, D., Legare, F., Lewis, K., Barry, M. J., Bennett, C. L., Eden, K. B., Trevena, L.. **Decision aids for people facing health treatment or screening decisions. Cochrane Database Syst Rev, 2017; 4: CD001431. doi:10.1002/14651858.CD001431.pub5.**
- 2) Stacey D, Kryworuchko J, Bennett C, Murray MA, Mullan S, Légaré F. **Decision coaching to prepare patients for making health decisions: A systematic review of decision coaching in trials of patient decision aids. Med Decis Making. 2012; 32(3): E22-33.**
- 3) Jerofke-Owen, T., & Dahlman, J. **Patients' perspectives on engaging in their healthcare while hospitalised. J Clin Nurs 2019; 8 (1-2): 340-350.**
- 4) Katie Lee, S.Y. C., Knobf, M. T. **Primary breast cancer decision-making among Chinese American women: Satisfaction, regret. Nursing Research. 2015; 64(5), 391–401.**
- 5) Ito M, Hattori K, Murakami K, Turale S, Ichihashi T (2017) **Patients' Decision-Making Preferences for Five Assumptive Clinical Cases. Ann Nurs Pract 4(3): 1086.**
- 6) Ito M, Noritoshi T, Turale S. **Perceptions of Japanese patients and their family about medical treatment decisions, Nursing and Health Sciences 2010; 12(3): 314-321.**
- 7) Moriyama M, Ito M, Matsumoto K. **Difficulties Faced by Critical Care Nurses Involved in Family DNAR Decision-Making. Journal of Japan Society for End-of-Life Care 2019; 3(1): 3-13.**
- 8) 長崎恵美子・伊東美佐江．病院の規模別からみた臨床看護師の倫理的問題の体験と看護倫理教育への課題．日本看護倫理学会誌、**10(1)、26-35、2018.**
- 9) O'Connor AM, Stacey, D, Jacobsen MJ. **Ottawa Decision Support Tutorial (ODST): Improving Practitioners' Decision Support Skills Ottawa Hospital Research Institute: Patient Decision Aids, 2011. <https://decisionaid.ohri.ca/decguide.html> ( 閲覧日 : 2018 年 12 月 1 日 )**

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Ito Misae, Tsutsumi Masae	4. 巻 24
2. 論文標題 A call to action for an inclusive model of shared decision making in healthcare	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nursing and Health Sciences	6. 最初と最後の頁 3~6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/nhs.12879	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石川佳子・伊東美佐江	4. 巻 70
2. 論文標題 わが国の非がん呼吸器疾患患者のエンドオブライフケアの意思決定支援に関する文献検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山口医学	6. 最初と最後の頁 119-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 伊東美佐江、黒石洋史、松本啓子、小野聡子	4. 巻 22
2. 論文標題 臨床看護師のがんの情報未告知依頼状況と患者家族の意思決定に対する認識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 坂井真愛・伊東美佐江	4. 巻 38
2. 論文標題 フェスティンガーの認知的不協和理論事例編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊ナーシング増刊号 使える・わかる・役に立つ 臨床現場の困ったを解決する看護理論	6. 最初と最後の頁 94-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 伊東美佐江
2. 発表標題 EOLC コミュニケーションに活かす意思決定支援ツール
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会 第4回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊東美佐江、小野聡子、森山美香、長崎恵美子、秋鹿都子、村上京子、戸部郁代、松本啓子、大坂和可子、青木裕見、有森直子
2. 発表標題 意思決定支援に伴う看護者のジレンマを低減する方略
3. 学会等名 日本看護倫理学会 第13回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Misae Ito, Satoko Ono, Mana Sakai, Eri Kataoka, Keiko Hattori, Kyoko Murakami, Keiko Matsumoto.
2. 発表標題 The family 's experience of healthcare decision-making: A qualitative descriptive study.
3. 学会等名 the 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Misae Ito, Satoko Ono, Mana Sakai, Eri Kataoka, Keiko Hattori, Kyoko Murakami, Keiko Matsumoto.
2. 発表標題 Competent older adults ' preferences in healthcare decision making.
3. 学会等名 The 45th Biennial Convention, Sigma Theta Tau International (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Misae Ito, Emiko Nagasaki, Satoko Ono, & Mika Moriyama.
2. 発表標題 Japanese situation of decision making support for elderly with heart disease.
3. 学会等名 Ottawa Patient Decision Aid Research Group Meeting (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mana Sakai, Misae Ito, Kanako Yamamoto, Kazunori Nagasaki
2. 発表標題 A Family Experience of Decision-Making Home Care for the Cancer Elderly With In-Home Medical Care
3. 学会等名 Sigma Theta Tau International's 29th International Nursing Research Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Misae Ito, Kyoko Murakami, Satoko Ono, Keiko Matsumoto, Keiko Hattori, Manami Sato, Arisa Yamasaki, Michiko Koresawa, & Naomi Shibata
2. 発表標題 Family efficacy on decision making for kin with cancer in terminal stage. A literature review
3. 学会等名 Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International, 44th Biennial Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂井真愛、伊東美佐江、片岡恵理、小野聡子、松本啓子
2. 発表標題 エンドオブライフの治療の意思決定における家族の体験
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第1回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊東美佐江、森山美香、片岡恵理、服鳥景子、小野聡子、大塚千秋、松本啓子
2. 発表標題 エンドオブライフケアにおける蘇生措置の意思決定を行う家族への支援
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第1回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Misae Ito, Kyoko Murakami, & Satoko Ono
2. 発表標題 Family involvement in healthcare decision-making toward a patient
3. 学会等名 Ottawa Hospital Research Instituteでの研究の打ち合わせ（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoko Ono, Misae Ito, Keiko Matsumoto, Mika Moriyama, Kyoko Murakami, Dawn Stacey
2. 発表標題 Development and validation of a shared decision support program based on Ottawa Decision Support
3. 学会等名 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2023) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 嶋田知恵、小野聡子、加藤真帆、石川佳子、伊東美佐江
2. 発表標題 非がん性慢性呼吸器疾患に対するACP支援の特徴
3. 学会等名 第8回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 中国・四国支部学術集会
4. 発表年 2022年



〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	村上 京子  (Murakami Kyoko)  (10294662)	山口大学・大学院医学系研究科・教授   (15501)	
研究 分担者	戸部 郁代  (Tobe Ikuyo)  (20192908)	山口大学・大学院医学系研究科・准教授   (15501)	
研究 分担者	小野 聡子  (Ono Satoko)  (20610702)	川崎医療福祉大学・保健看護学部・講師   (35309)	
研究 分担者	松本 啓子  (Matsumoto Keiko)  (70249556)	香川大学・医学部・教授   (16201)	
研究 分担者	生田 奈美可  (Namika Ikuta)  (70403665)	山口大学・大学院医学系研究科・准教授   (15501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	ステイシー ドーン  (Stacey Dawn)	オタワ大学・School of Nursing・教授	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	長崎 恵美子  (Nagasaki Emiko)  (70781558)		
連携研究者	森山 美香  (Moriyama Mika)  (50581378)	島根県立大学・看護栄養学部・教授    (25201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関